

# グラントワフ応援団通信

令和5年

1月14日発行

第58号

まもなく再開です

いわみ芸術劇場 舞台技術振興課長

田尻 直子

益田に異動し早3年となりませんが、コロナ禍から始まり、耐震改修工事によるホール休館となかなか巡り合うことのない機会となつていきます。

約1年6ヶ月の工事期間中、グラントワの各所で様々な工事が行われました。大・小ホールをはじめ、美術館、壁面の瓦・回廊などなど。いったいどこが変わったの?と思われるかもしれませんが、これまでの姿かたちはそのままに、より安全に使いやすくなっています。そして、長かった工事期間も残りわずかとなりました。

この工事期間中に私たち舞台技術振興課のメンバーが行って

いることを紹介させていただきます。工事の影響を受けないよう、日ごろは舞台袖に収納している機材や備品を楽屋へ移動。

グラントワの広い楽屋や楽屋通路は驚きの収納力です。各所で機材整備を行い、今後の利用に備えています。

また、今年度は益田市内や県西部の各地で公演を行っているので、グラントワを飛び出し様々な場所で舞台技術の仕事を行ってきました。近隣のホールのほか、体育館やキャバレーなど場所は様々。各所の電源容量や搬入事情に知恵を絞りつつ、設備の整った劇場のありがたさを改めて感じたこともありまし

たが、様々な場所に出向いたことでこれまで知らなかった県西部の魅力に触れることもできました。

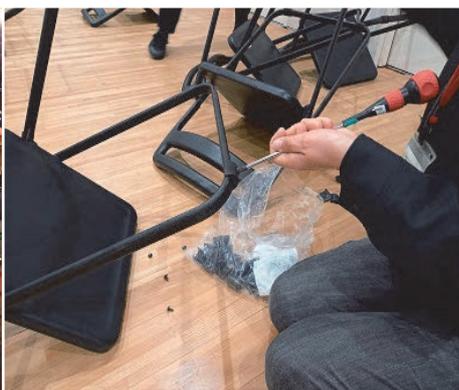
5月からはいよいよ劇場が再開します。今回の工事で、新しくなる機器の操作習熟や、備品の復帰作業など劇場再開までにやるべきことはまだまだたくさんありますが、劇場に賑わいが戻ってくる日を楽しみに頑張りますので、是非、グラントワにお越しください!



クレーン作業も行われました



キャバレーでの公演



椅子を修理しています



工事中は危険な箇所もあります

## 「十年前の記念誌」から

洗川光廣

先日、連れ合いが、普段は開けたことのない押し入れの中で見つけたと、「別冊太陽『森鷗外 近代文学における傑人』生誕一五〇年記念 監修 山崎一穎」(平凡社)十年前の記念誌を出して私に見せた。

早速、この記念誌を読んでみる。鷗外(森林太郎)は、一八七二年(明治五年)十一歳で津和野を離れ、東京で医学の学校へ、一八七三年(明治六年)十一月、医学校予科(のちの東京大学医学部)に入学、その後、鷗外は陸軍省医務局へ入局し、一八八四年(明治十七年)八月〜一八八八年(明治二十一年)九月までドイツに留学する。

鷗外は、ドイツで実験に基づく実証を学んだ。自然科学の合理的実証精神が西洋の文明の進歩を招来したこと、西洋の近代を創り上げた精神こそ(自由と美)にあると確信し帰国した。

ドイツ留学のミュンヘン時代、鷗外は、文学・演劇・美術・行楽等、画家原田直次郎らと青春を謳歌。注目すべきは、来日経験のあるエドモンド・ナウマンとの文化論争で、E・ナウマンは、「日

本列島の地と民」で、「日本の西洋文化の模倣的摂取」を批判する。

鷗外は「日本に関する真相」で西洋文化の真髄は「自由と美」にあり、それを受容することは何ら問題ないと反論している。

この記念誌の中で、現在、石見美術館専門学芸員の川西由里さんが『鷗外と美術 芸術をめぐる交流と活動』と題して記述され、「鷗外と美術」と聞いて多くの人が思い出すのは、原田直次郎の名前だろう。原田は留学先のミュンヘンで出逢い生涯の親友となった洋画家で、小説『うたかたの記』の主人公のモデルとしても知られている。鷗外は明治二十年代から三十年代にかけて、日本に洋画を根付かせようと奮闘した原田を理論面で支えるかのように美術評論を活発に行った。医学を学ぶために留学した鷗外だが、西洋美術の伝道師としての自負もあつたようで、そんな鷗外が評論において厳しく批判したのは、美術に対する無理解から生じる偏見だった。

コレクション展「没後100年記念 森鷗外とゆかりの画家たち」は、石見美術館で1月29日(日)まで開催中。

## あ と が き

「私のお父さん」は娘が父に恋人との結婚を許して欲しいと切々と訴える、美しく愛らしいプッチーニの歌劇「ジャンニ・スキッキ」の中の一度聴いたら忘れられない魅惑的なアリアです。同様に全編が美しい旋律と色彩豊かな管弦楽に包まれた歌劇「ラ・ボエーム」が2月25・26の両日に日本語字幕付きのイタリア語で上演されます。



お針子ミミと詩人ロドルフォの悲恋と、パリの売れない若い芸術家たちの生活を描いたこの作品はプッチーニの作品の中でも特に高い人気があり、続く「トスカ」「蝶々夫人」と共に三大オペラとされています。「私の名はミミ」

のほか、登場人物の名アリアが数多く楽しめます。

会場は松江の県民会館大ホールで、キャストの松江市出身者の起用や合唱参加者の一般募集、衣装手作りなど、地元制作の「しまね県民オペラ」として上演されます。チケットはパソコンあるいはスマホで島根県民会館オンラインチケット「シマチケ」と検索し内容をご覧の上で会員登録より入ってみてください。購入の際は座席指定で手続きが出来るとても便利です。

グラントワもオープンして今秋で8年となります。オペラ上演も指揮者の小澤征爾さんの来演、出雲市出身の錦織健さんプロデュースのモーツァルト、海外歌劇場公演など多くありましたが、この数年はコロナ禍のためもあり鑑賞機会がありません。5月にホール耐震改修工事終了後のリニューアルオープンを迎えますが、オペラだけでなく、優れた芸術文化のイベントを多く期待できればと思います。

大庭明博